吹田市立博物館
SUITA CITY MUSEUM

博物館だより

NO.25

SUITA CITY MUSEUM

「むかしのくらしと学校」展特集号

速報
千里ニュータウンが博物館にやってくる!!

千里ニュータウン展市民委員会会議風景

吹田市立博物館では、平成１８年（２００６）４月２２日から４４日間、千里ニュータウンに関する特別展を開催いたします。この展示は、これまでの博物館の催しとは、ひと味違い、市民が企画運営段階から参画して博物館スタッフとともに知恵を出し合い、市民の目線で表現していこうという画期的なものです。公募で集まった吹田市や豊中市などの市民有志が、その目的でこのたび実行委員会を立ち上げました。名付けて「千里ニュータウン展市民委員会」です。ここでは、展示やイベントの内容、広報など、毎月２回の超ハードスケジュールで議論し、準備を進めています。

千里ニュータウンは、まち開きして４０年以上を経過、まちそのものやライフスタイルも時代とともに大きく変わってきました。今回の展示では、そんなまちやくらしの歴史と文化を、子どもたちにもわかりやすく、どなたにも楽しめる魅力的なものをと心がけ、地域の皆様のご期待に添えるよう努力しております。

「千里ニュータウンが博物館にやってきた」をキャッチフレーズに、はたしてどんな展示、どんなイベントが登場することか。スタッフ自体、わくわくしながら知恵をしぼっています。

どうか、おそろいで博物館へお運び下さい。　（実行委員長　谷川　一二）

「むかしのくらしと学校」展特集
博物館って楽しいな！

毎年、３学期を向かえると、博物館ににぎやかな声が響(ひび)きます。いつもの静けさがうそのように。小学校３年生の社会科で、むかしのくらしを勉強する授業にあわせてやって来ます。たくさんの小学生がたくさんの元気を運んでくれ、私たちにちょっぴりの疲労(ひろう)感をおみやげに残して帰っていきます。多くの子どもたちが博物館デビューするこのときの印象(いんしょう)こそ、博物館の将来を左右する大問題なのです。博物館をおもしろく思うか、つまらなく思うか、好きか、きらいか・・・。

この展示でいちばん力を入れているのが、体(たい)験(けん)してもらうことです。ケース内の展示物を見るだけでは、子どもたちはおもしろいと思わない。さわって・やって・あそぶ、そのとき楽しいと感じてくれ、いろんなことを学んでくれるような気がします。

小学生の感想文には、ひとりひとりのそんな思いが書かれています。

「げたをはいた時に、『持ってかえりたい！』とさけびました。」「むかしのはかりではかるのが、何でこんなに大へんなのかが、ぎ問です。」「昔の明かり、こんなにすごいの～。」「もっと昔のことを知りたい。」「むかしの方がいいなぁ。」「昔は大へんだったと思いました。」

体験から「モノ」（展示物）への関心が生まれればいいなと思います。なにはともあれ、みんな楽しそうな表情をしてくれているのをみると、ホッとします。

（田口　泰久）

展示見学風景

むかしのせんたく風景（イラスト　米子　千智）

る間は走って競争するのもあった。

戦争が激しくなる前は、夏になると屋台に「氷」と書いた旗をなびかせたカキ氷屋が回ってきた。値段はいくらか忘れたが、時にはもらったおこづかいを握って走っていった。

ビール瓶を運ぶケースは、今では硬化プラスチック製であるが、当時はすべて木製で、古くなると工場から割り当てで払い下げられた。私たちはリヤカーでもらいに行ったが、それだけでは足りないので薪割りもやらされた。

夏には子どもは風呂には入らず、大きな木製のタライに日向水を作り、裏庭でよく行水をした。燃料節約のためだったが、子ども同士で水をかけ合いするのが楽しかった。

燃料といえば、ヘッツイさん（かまど）や風呂の火種にするために、淀川の長柄あたりの川原に葦を刈りに行ったことを思い出す。兄と二人でリヤカーを引っ張って行くのは大変だった。行く時は交代でリヤカーに乗れたが、帰りは葦をギュウギュウに押さえて山盛りにするので、前が引っ張り、後ろから押すという難行であった。枯れた葦はよく燃えるのですぐになくなり、一週間後にまた行った。

考えてみると、私たちの子どものころは、本当によく家の仕事を手伝ったと思う。今の子どもたちに、長柄までリヤカーを押して荷物を運べと言ったらどうするだろうか。

給食こぼれ話

展示ケース内に懐かしの給食メニューの一例が置かれています。「コッペパン・脱脂粉乳・鯨の竜田揚げ・せんキャベツ」もちろん、ねんどで作ったにせものです。昭和３０年代から４０年代前半にかけての代表的な給食メニューです。今の子どもたちには、脱脂粉乳と鯨が想像できないのでは。また逆に年配の方が今の給食を食べればビックリするでしょう。年代や地域、個人の好みにより、一概にはいえませんが、好きだったものと嫌いだったものを聞き取りしてみました。カレーシチュー・カレーうどん・やきそばなどがおおむね好評で、苦手だったのはなんといっても脱脂粉乳でした。鯨肉のメニューは好き嫌いがあり、おいしかったという人や固くていやなにおいがしたという人もいました。また、変わったものもでたようで、マカロニのきな粉あえ、名前は一説では「マカロニあべかわ」というまか不思議な副食がでたとか。　（田口　泰久）

展示の給食メニュー

小学生のころ　　浜田　弘

昭和１６年、小学三年生の時、「小学校」から「国民学校」へと名称が変わった。

学校で工作に使う粘土などは片山へ取りに行くのが普通だったし、水鉄砲や竹馬に使う竹も片山の藪から勝手に取ってきた。

よくやった遊びは、前の道に古釘などで円を描き、グー・パーと飛んでいく石けり。模型飛行機もよく作った。胴体は細い木、翼は竹ヒゴと紙で作り、飛ばし合いをする。初めのうちはグライダー、少し上達するとゴムを動力にしてプロペラを回す飛行機を作った。

学校では、同じ組の者が、横一列に並んで飛距離を競った。学校で教材として作るときには親からお金をもらうが、子ども同士で作るときはお金をくれないので、無理に頼んで家の用事を手伝い、おこづかいをもらった。そして材料店であれこれ物色するのが楽しかった。

ビー玉もおもしろかった。子どもが欲しがったのは「メンコ」、ぼくたちは「ベッタン」と呼んでいた。それも、強い相撲取りが化粧まわしをしている絵が人気であった。お互いに見せ合って自慢したものだ。コマ回しもよくやった。はじめは地面で回したが、少し上達するとセルロイドの下敷きでコマを受けて、回ってい

メンコ（ベッタン）であそぶ子どもたち（イラスト　米子　千智）

小高い山だったところです。六年生が山の下で網を張って待っています。ほかの生徒は横に広がって、いっせいにうさぎを頂上へ追い上げます。

追い上げるときは、棒はふり回さなかったし、声もださなかったようです。うさぎを追っている時には、茶色い野うさぎの姿はほとんどみえませんでした。うさぎは山登りは得意ですが、坂を下るのは大のニガ手。それは前足が短いからです。追い上げたうさぎを下で待っている六年生がかくれて持っている網をめがけて追い込みます。

このときは「ウォー」という大声を出し、力いっぱい草や木をたたきます。

三十分もしてみんなが下にたどりついたころ、「とれた、とれた」という声があがります。そんなにとれませんが、二年に一度はとれたと思います。家に帰って「今年は何びき？」と聞かれると、「むひき」といって、六ぴきもとれたように言います。ほんとうは無ひき、一ぴきもとれなかったのです。

とれたうさぎの手足をナワでしばり、長い竹の棒に逆さにつるして、意気ようようと村の中を学校へと帰っていきました。

大人になって「故郷」という童謡「うさぎ、おいしー」の歌をきくと、そんな小学校時代を思い出します。

ぼくの給食・・・　　福田　昌治

敬老の日、今年２歳になった孫が通う保育園で給食を食べた。

献立ては、「カレー・みそ汁・サラダ」だった。孫は楽しそうに食べた。

思い出した。６０年前、小学１年生だった。ぼくが缶詰を食べたことを。

戦争が終わり、米軍が進駐してきた田舎でのことだった。農業と漁業の村だった。

そんなある日、学校で配られた「クジラ」の缶詰だった。食べた味は？

米軍の支給だった。初めての経験だった。

あと何が配られたか、既にぼくには記憶がない。

農家の子どもとして、「牛肉」とかは、あの当時、食べたことなどなかった。

缶詰の「クジラ」だけが鮮明に記憶されている。

また、脱脂粉乳も配られた。「パン」もあった。

その当時、ぼくらの家では何を食べていたのだろうか？

都会ではどうだったか？

ぼくの給食の思い出は、缶詰の「クジラ」からだ。

それは、昭和２０年後半から２２年の記憶である。

ボランティアさん達の小学校時代

「むかしのくらしと学校」展で、大いに活躍されているのがボランティアさんたちです。なんといっても、「むかしのくらし」を体験されている方々が多く、説得力のある説明には頭が下がります。小学生にとっては、おじいちゃん・おばあちゃんのような存在（もちろん、お母さん世代のかたもおられますが）で、ときおり小学生が放つ素朴なんだけど難しい質問にも、動じることなく対処して下さる姿は頼もしい限りです。そんなボランティアさんの小学校時代の思い出を綴っていただきました。うーん。勉強になるなぁ。

山田のうさぎ狩り　　松村　学

今から５０年も前、山一小学校の冬の耐寒訓練では、「うさぎ狩り」が行われていました。北風の吹く中、手袋とあついくつ下にズックぐつ、山をかけまわりやすい服そうで登校します。

みんな手に手に竹や木の棒をもって校庭にあつまります。先生から、ため池や用水路に落ちないよう、気をつけましょうと注意があります。野ツボ（肥だめ）に落ちた先生がおられたという記憶は鮮明に残っています。

行き先は今のエキスポランドや毎日放送のあたりでした。万国博が開かれる前は

うさぎ狩りの記念写真

体験することからの学び

「あかり」の実演　　横山博明

「オー」「スゲー」「明るー」「カッコイイ」・・・。

この言葉を聞くと、演者はいつも嬉しくなります。

博物館では、毎年、１２月中ごろから４月の春休み終了時くらいまで、「むかしのくらしと学校」展という、おもに小学校３年生を対象（大人も）とした特別企画を開いています。この催しには、吹田市内や周辺市の小学校の３年生が学習のために、学校から見学と体験に来ます。

冒頭の言葉は、当館の講座室を真っ暗にして、行灯やろうそくに火をつけたとき、いずれの学校の子どもたちも、最初に発する一瞬の感動をあらわす声なのです。そしてその後、火を見つめながら、それぞれの思いを口にする十数秒が続きます。

都会に住む今の子どもたちは、真夜中でもネオンや街灯の明かりで真っ暗闇を経験したことがないし、まして、ろうそくや行灯の灯りを体験するということもほとんどないわけですから、暗闇の中のろうそくの灯を、すごく新鮮なものに感じるのでしょう。

灯りがついたところで本を読むのですが、「読める、読める。」「明るいわー。」「昔の人はこんなんで読んでいたんか。」などといろんな反応をみせてくれます。このあと３年生には少し難しい、昔の灯りやくらしの学習をするのですが、最初の感動が生きていて、話をよく理解してくれます。それは、後日送られてくる感想文でも伝わってきます。

「あかり」の実演風景

３年生くらいの子には、彼らのおじいさんやおばあさんの子ども時代のくらしは、明治・大正時代と同じくらいの感覚のようですから、実体のない「むかしのくらし」を理解させるのはなかなか難しい作業です。感動が学習につながるよう、展示や説明の仕方など工夫していきたいと思っています。

「あかり」の実演風景

行事案内

「むかしのくらしと学校」展

12月13日（火）～４月２日（日）
休館日－月曜日・祝日の翌日・年末年始
３月４日・５日

明治・大正・昭和にかけての生活用具や学校関係の資料などを展示。くらしやあそびの移り変わりを、多くの体験コーナーでも学べます。 体験コーナーには、火打ち石・昔のはきもの・はたおり・昔のおもちゃなどがあります。

「むかしのくらしと学校」展関連イベント

親子体験講座「やさしいおもちゃ作りと謄写版体験」
１月29日（日）午前の部10時～12時
午後の部13時半～15時半
講師　シルバーアドバイザーのみなさん
三木敏正教諭・横山博明氏
各２０組（申し込み制・１月20日（金）必着）

講演「住まいのうつりかわり－千里ニュータウンを考える－」
２月５日（日）13時半～15時半
講師 当館館長　小山修三
定員120名・申し込み不要

親子体験講座「縄文織り体験」
２月18日（土）午前の部10時～12時
午後の部14時～16時
講師　古代織草房主催　三宅恭子氏
各20組（申し込み制・２月10日（金）必着）

親子体験講座「昔のあかりと火おこし体験」
３月12日（日）午前の部10時～12時
午後の部14時～16時
各20組（申し込み制・２月28日（火）必着）

※申し込み制の講座は、ハガキまたはファックスで、講座名・参加者名・住所・電話番号を書いて、博物館へ。締め切り厳守。多数の場合は抽選。

博物館トーク

12月18日（日）「唐箕（とうみ）の見かた－東西差について－」
学芸員　藤井裕之
１月22日（日）「博物館で焼いた弥生土器」
学芸員　藤原　学
２月19日（日）「呪（まじない）に使うサンダワラ（俵のふた）」
学芸員　藤井裕之
３月19日（日）「古文書が語るもの－村明細帳－」
学芸員　田口泰久

※トークはいずれも14時～15時・申込不要

春季特別展プレイベント

「よみがえる60年代音楽とファッションショー」
３月21日（祝）14時～16時

交通案内

●ＪＲ岸辺駅下車徒歩25分
●ＪＲ吹田駅・阪急吹田駅から
桃山台駅前ゆき、山田樫切山ゆきバス「佐井寺北」下車徒歩10分
千里中央ゆき、阪急山田ゆきバス「岸部」下車徒歩10分
●ＪＲ吹田北口から
五月が丘南ゆきバス「五月が丘西」下車徒歩７分
●阪急南千里駅から
ＪＲ吹田ゆきバス②、③系統「佐井寺北」下車徒歩10分
●車でのご来館は五月が丘・佐井寺方面からお願いします。

●開館時間
午前９時30分～午後５時
●休館日
月曜日、祝日の翌日
12月29日～１月３日
http://www.suita.ed.jp/hak/

吹田市立博物館だより　第25号　　平成17年（2005）11月30日発行
吹田市立博物館　〒564-0001　吹田市岸部北４丁目10番１号
TEL.06（6338）5500　FAX.06（6338）9886